

【がん種】 [非ホジキンリンパ腫](#)  
【レジメン名】 1日 Pola+R-CHP 1～6コース目  
【登録番号】 011161  
【1コースの期間】 3週間  
【投与間隔調整規定】 -2日  
【総コース数】 6コースまで(忍容性があればPola+R-CHP 7～8コース目を施行する)  
【催吐性リスク】 高度:CHP、軽度:ボライビー、最小度:リツキシマブBS  
【抗がん剤の組織障害性】 ビシカント(壊死性):アドリアシン、イリタント(炎症性):エンドキサン、ノンビシカント(非壊死性):リツキシマブBS、ボライビー  
【投与量に制限のある薬剤】 アドリアシン:生涯に500mg/m2まで  
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、注入に伴う反応、発熱、疲労、傾眠、間質性肺炎、心不全、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎、味覚不全、下痢、便秘、末梢性感覚ニューロパチー、末梢性運動ニューロパチー、脱毛、血管炎、出血性膀胱炎、赤～黄色尿  
【必要な検査】 一般採血、心エコー、十二誘導心電図  
【根拠論文】 N Engl J Med 2022;386:351-63.

【点滴の時間】 [day1]初回約7時間30分、約6時間10分  
【その他】 対象患者:CD20+のDLBCL  
ボライビー:155mgを超える場合は生理食塩液100mLに希釈する。

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日								
					1	2	3	4	5	…	21		
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○								
2	アセトアミノフェン錠 200mg	3 錠/回	内服	1日1回 リツキシマブBS投与30分前	○								
3	生理食塩液 50mL 水溶性ブレドニン 50mg ポラミン注 5mg/1mL	1 B 2 A 1 A	側管	全開 開始時にアセトアミノフェン内服	○								
4	生理食塩液 100mL アロキシン静注 0.75mg	1 B 1 A	側管	30分	○								
5	生理食塩液 500mL リツキシマブBS点滴静注「KHK」	- mL 375 mg/m2	側管	1mg/mLの濃度に調製 初回 50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ速度を上げ、最大400mL/hまで 2回目～ 100mL/hで開始し、30分毎に100mL/hずつ速度を上げ、最大400mL/hまで	○								
6	生理食塩液 50mL ボライビー点滴静注 蒸留水 100mL 調製後6時間以内に投与を終了する	1 B 1.8 mg/kg 1 B	側管	初回90分、2回目～30分 フィルター使用 ボライビー溶解用	○								
7	生理食塩液 100mL アドリアシン注用	1 B 50 mg/m2	側管	全開	○								
8	生理食塩液 250mL 注射用エンドキサン 調製開始から6時間以内に投与を終了	1 B 750 mg/m2	側管	1時間	○								
9	ブレドニン錠 5mg	20 錠/回	内服	1日1回朝食後		○	○	○	○				

【1日 Pola+R-CHP 1～6コース目減量・休薬・中止基準】

N Engl J Med 2022;386:351-63.

減量	ボライビー	アドリアシン	エンドキサン
開始量	1.8mg/kg	50mg/m <sup>2</sup>	750mg/m <sup>2</sup>
1段階	1.4mg/kg	75%量	75%量
2段階	1.0mg/kg	50%量	50%量
3段階	中止	中止	中止

有害事象	Grade	用量調整
好中球数減少 8日以上継続	3以上	アドリアシン and/or エンドキサン1段階減量
血小板数減少 8日以上継続	3以上	アドリアシン and/or エンドキサン1段階減量
血小板数減少が再度出現	3以上	
出血性膀胱炎	-	肉眼的出血がなくなるまでエンドキサンを休薬し、回復後エンドキサンを50%量に減量することを考慮する
血中ビリルビン増加 血中ビリルビン1.5≤血中ビリルビン≤3.0mg/dL	-	ボライビー、アドリアシンを1段階減量
血中ビリルビン>3.0mg/dL	-	Grade1以下に改善するまでボライビー、アドリアシンを休薬
末梢性感覚ニューロパチー	2	1.4mg/kgに減量する。既に1.4mg/kgで、次回投与日までにGrade2が持続又は再発した場合、1.0mg/kgに減量する。既に1.0mg/kgの場合、投与を中止する。
	3	Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後に投与を再開する場合、1.4mg/kgに減量する。既に1.4mg/kgの場合、1.0mg/kgに減量する。既に1.0mg/kgの場合、投与を中止する。
	4	中止
末梢性運動ニューロパチー	2, 3	Grade1以下に回復するまで休薬する。回復後に投与を再開する場合、1.4mg/kgに減量する。既に1.4mg/kgの場合、1.0mg/kgに減量する。既に1.0mg/kgの場合、投与を中止する。
	4	中止
便秘	3以上	Grade2以下に回復するまでボライビーを休薬し、改善後、ボライビーの1段階減量を考慮する
イレウス	3以上	
注入に伴う反応	3以上	原因薬剤を中止する。
アナフィラキシー	-	
その他の非血液毒性	2以上	必要に応じて原因薬剤を1段階減量する。
※悪心、嘔吐、下痢を除く		